

ロンドンの中・小規模 TERRACED HOUSE

研究ノート(4)

会津大学短期大学部

産業情報学科

時野谷 茂

ロンドンの中・小規模 TERRACED HOUSE

研究ノート(4)

時野谷 茂

平成22年12月17日受付

【要旨】 本稿はロンドンに一般にあり都市景観の主要な要素となっている TERRACED HOUSE について町並み構成パターンを中心に調査した結果について記すものである。今回は前回地区を南に下った North Kensington 地区 (図-01) を対象とした。結果として 44 街路 (家並としては 73) 1094 住戸についてのデータを集め分析を行なった。

これまでの地区との比較でこの地区の特徴を述べると家並み構成単位については玄関の位置が同じである (a) の配置が 31% を占めていることは特筆すべきである。これまでの地区では最高が Fulham 地区の 5% であることから見ても大きな違いである。また、(b) の鏡写しの 2 戸を組み合わせたものが Fulham 地区では 76%、Kensal Green 地区では 75%、Kilburn High Road 地区は 88% と 4 分の 3 以上を占めていたが、今回の地区は 29% であったことも他とは大きく異なった点である。前回新たに設けた (a) と (b) が交互においてパターン化するような (ab) が 16% あったことも他地域とは異なる点である。

1 家並みに見られる建物の表面デザインの種類については Fulham 地区では 1 種類 (62%) と 2 種類 (24%) でほとんどを占め、Kensal Green 地区では 1 種類 (34%)、2 種類 (34%) そして 3 種類 (23%) と異なったデザインの住戸を多用しているという特色がみられ、Kilburn High Road 地区は 1 種類 (30%)、2 種類 (25%)、3 種類 (15%)、4 種類 (10%)、6 種類 (6.7%) そして 7 種類 (10%) と多くの種類を含んでいる家並みが多いという特等がみられたが、今回は 1 種類 (49%)、2 種類 (26%)、3 種類 (19%) と Kensal Green 地区に似た傾向であった。

全体構成については Fulham 地区では (ア) 単一のパターンを連続させるもの (71%)、(ウ) 家並みを数区に分けそれぞれに別のパターンを並べるもの (通りによる分節無し) (21%) とこの 2 タイプで 9 割を占め Kensal Green 地区では (ア) (47%)、(ウ) (10%) と 6 割弱、Kilburn High Road 地区は (ア) (32%)、(ウ) (43%) と 7 割強となっているが、今回は (ア) (68%)、(ウ) (25%) と 2 つで 9 割強となり Fulham 地区に似た傾向を示している。

道路の両側の関係では各地区を代表するものは Fulham 地区では構成単位も異なり、関係性が薄い (4) や (4') が 50%、Kensal Green 地区では同じ構成単位であるが並べ方には関係性が薄い (3) や (3') が 48%、Kilburn High Road 地区ではある程度以上シンメトリーを感じる (0) や (0') が 45% であったが、今回は ((4) や (4')) が 56% を占め (0) や (0') は 4% であった。

その他これまでの調査で見られなかったものとしては、いずれもこれまでの地区に見られたのよりは規模の大きいものであったが、住戸中央に玄関のあるタイプの家並や戸建てタイプの家並があった。

1. はじめに

本稿はロンドンに一般にあり都市景観の主要な要素となっている TERRACED HOUSE について町並み構成パターンを中心に調査した結果について記すものである。これに類する研究は FULHAM 地区を対象にした「ロンドンの中・小規模 TERRACED HOUSE 研究ノート(1)」(会津大学短期大学部研究年報第 54 号)、KENSAL GREEN 地区を対象とした「ロンドンの中・小規模 TERRACED HOUSE 研究ノート(2)」(同第 66 号)、そして KILBURN HIGH ROAD 地区を対象とした「ロンドンの中・小規模 TERRACED HOUSE 研究ノート(3)」(同第 67 号)がある。今回は前回地区を南に下った NORTH KENSINGTON 地区(図-01)を対象とした。結果として 44 街路(家並としては 73) 1094 住戸についてのデータを集集し分析を行なった。



図-01: 調査対象地区の範囲と本稿での地域区分

2. 調査方法

調査方法は前回と同様に「ORDNANCE SURVEY MAPS, 25 inches to the mile」の復刻版を用い、そこに描かれた建物の現在の様子を記録して回るというものである。はじめに地図に描かれた建物が現存するかをチェックすることからはじめ、次に建物自体の細部観察へと入る。そのために街路名称、住戸番地、玄関の形、壁の色、屋根の形等が記入できる調査用紙を作成し、地図を基に対象地区を歩き、各項目をチェックした後、できるだけ正面から各住戸の写真を撮り、それに基づいて概略立面図を作成し家並構成等を検討する。なお、一々立ち止まってカメラを向けると拒否反応を示す住人がいることと効率的に調査を進めるために、一部ビデオカメラを使用した。

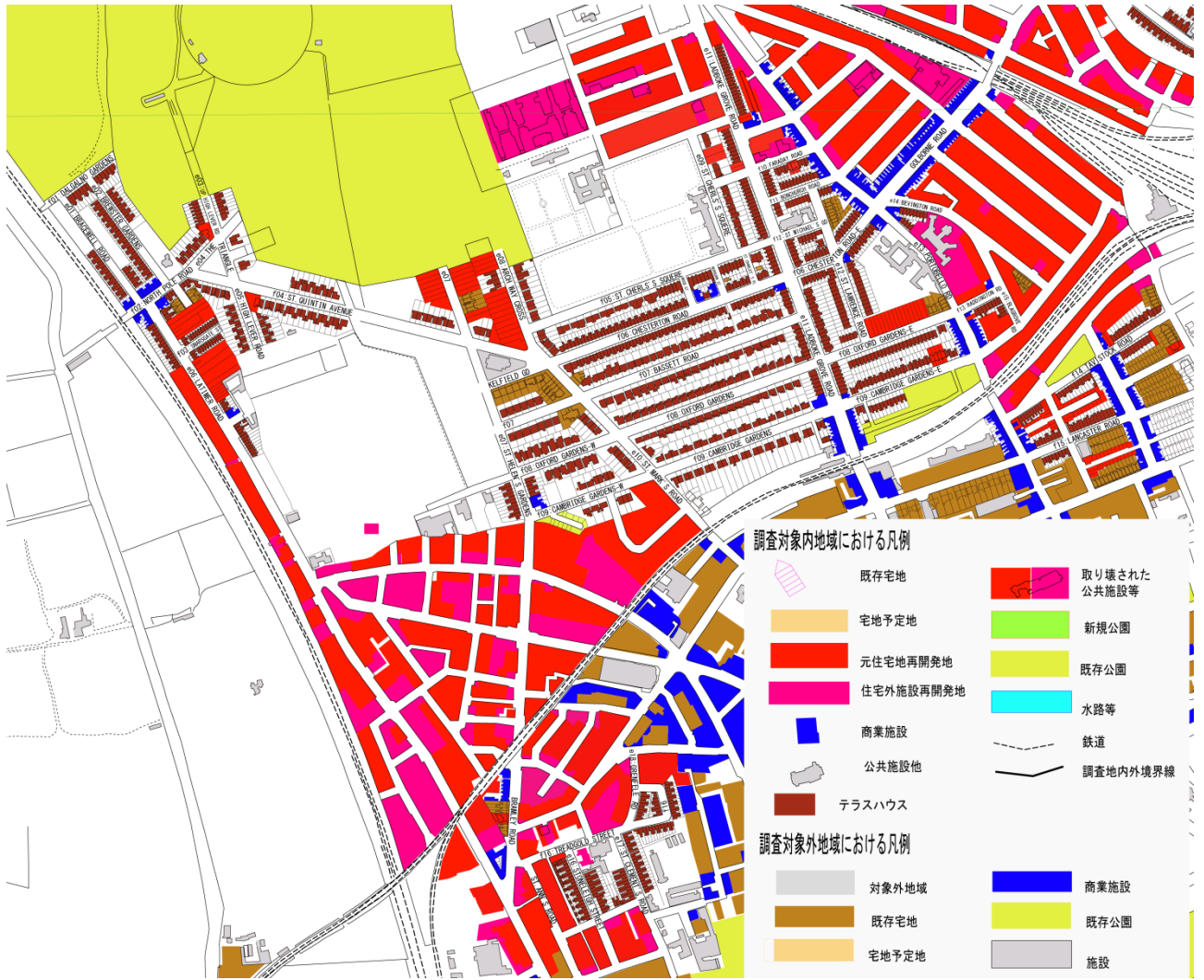


図-02: 調査対象地区並びに周辺の現状

3. 研究方法

研究方法も基本的には前回の方法を踏襲し、各住戸の接続の仕方、並べ方そして全体としての構成について研究をすすめた。そのためにこれまでと同様に「家並立面図」、「住戸ファサードリスト」、「街路両側におけるファサードデザイン関係図」、「家並周辺関係分析図」と「家並分類一覧」を作成した。

また、立面図を描くに当たっては、図-03に示すように家並構成を見るという目的を明確にするために必要な要素に絞って描くこととした。

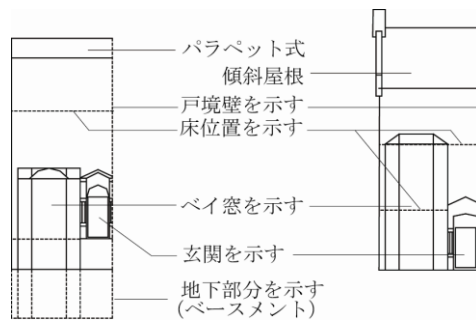


図-03: 家並立面作成基準を適用した立面図の例

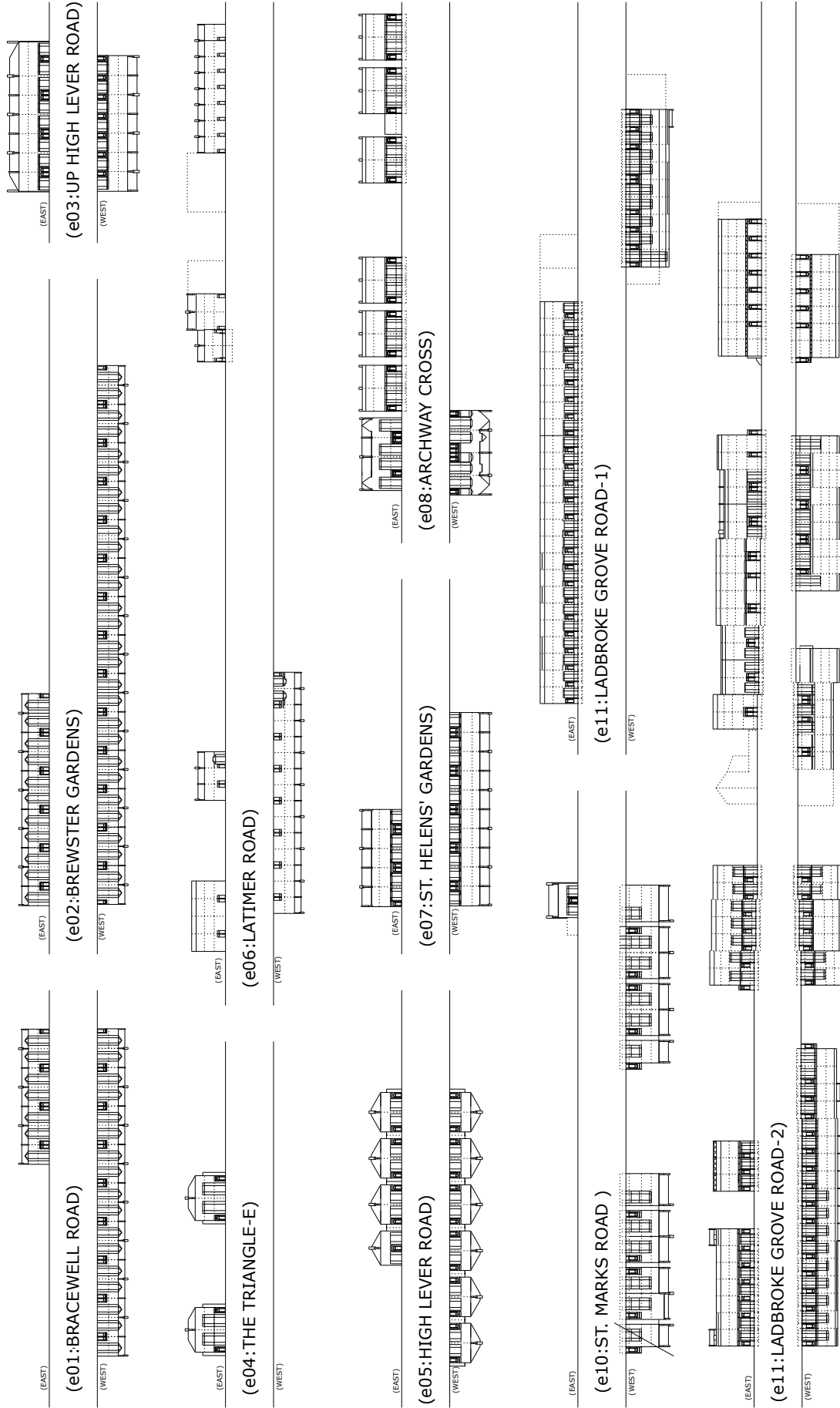


図 -04: 家並立面図_01

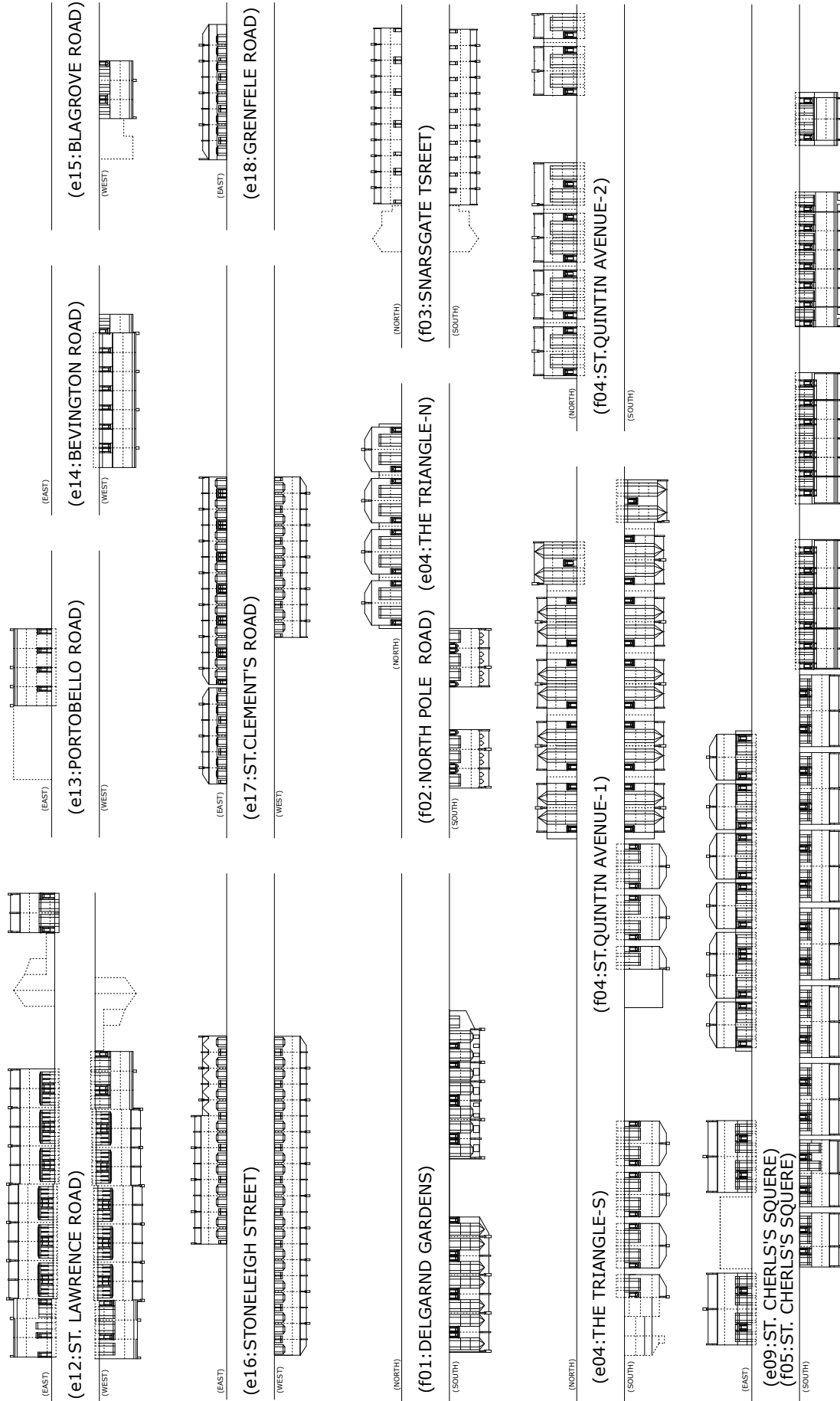


図-05: 家並立面図_02

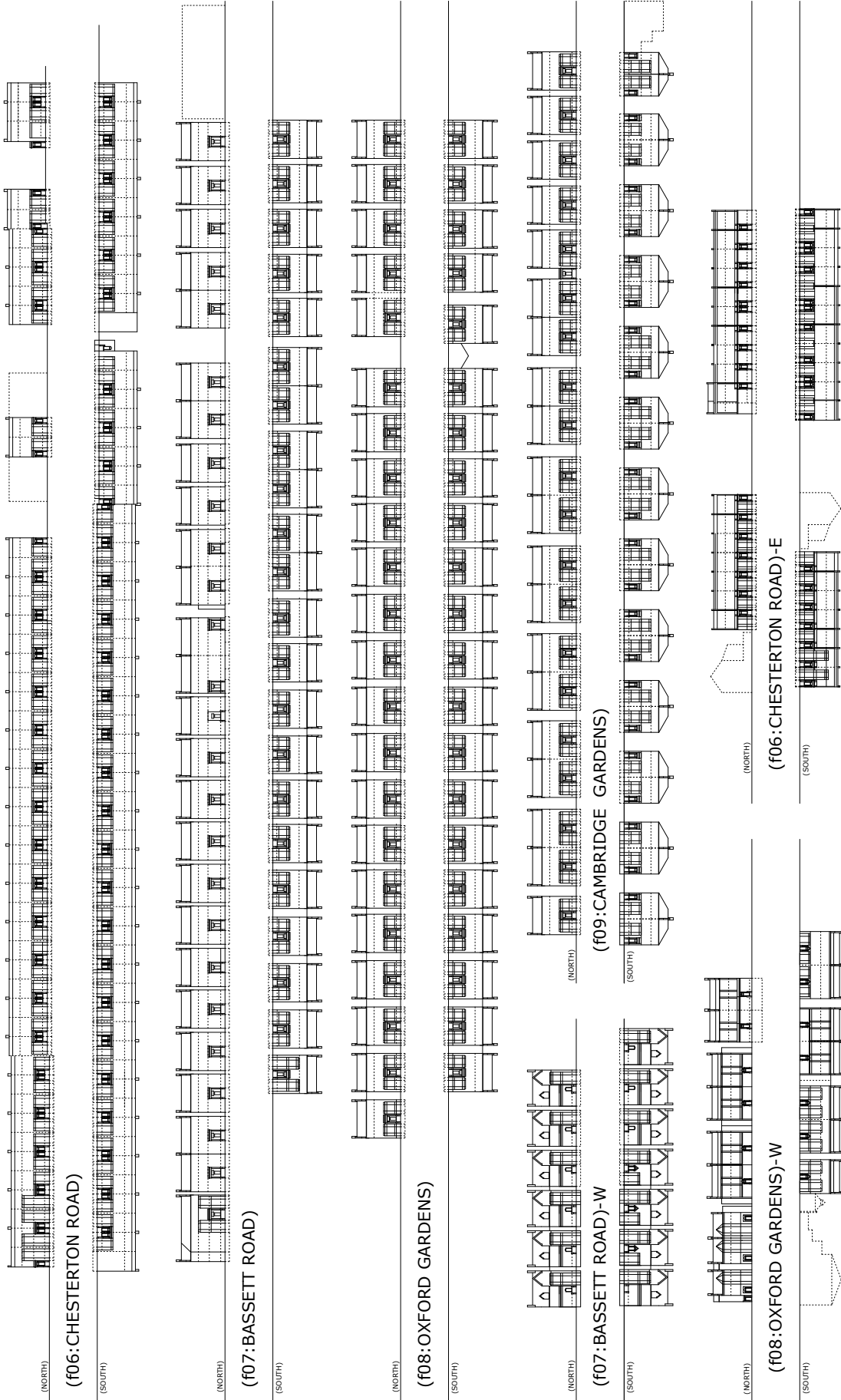


図-06: 家並立面図_03

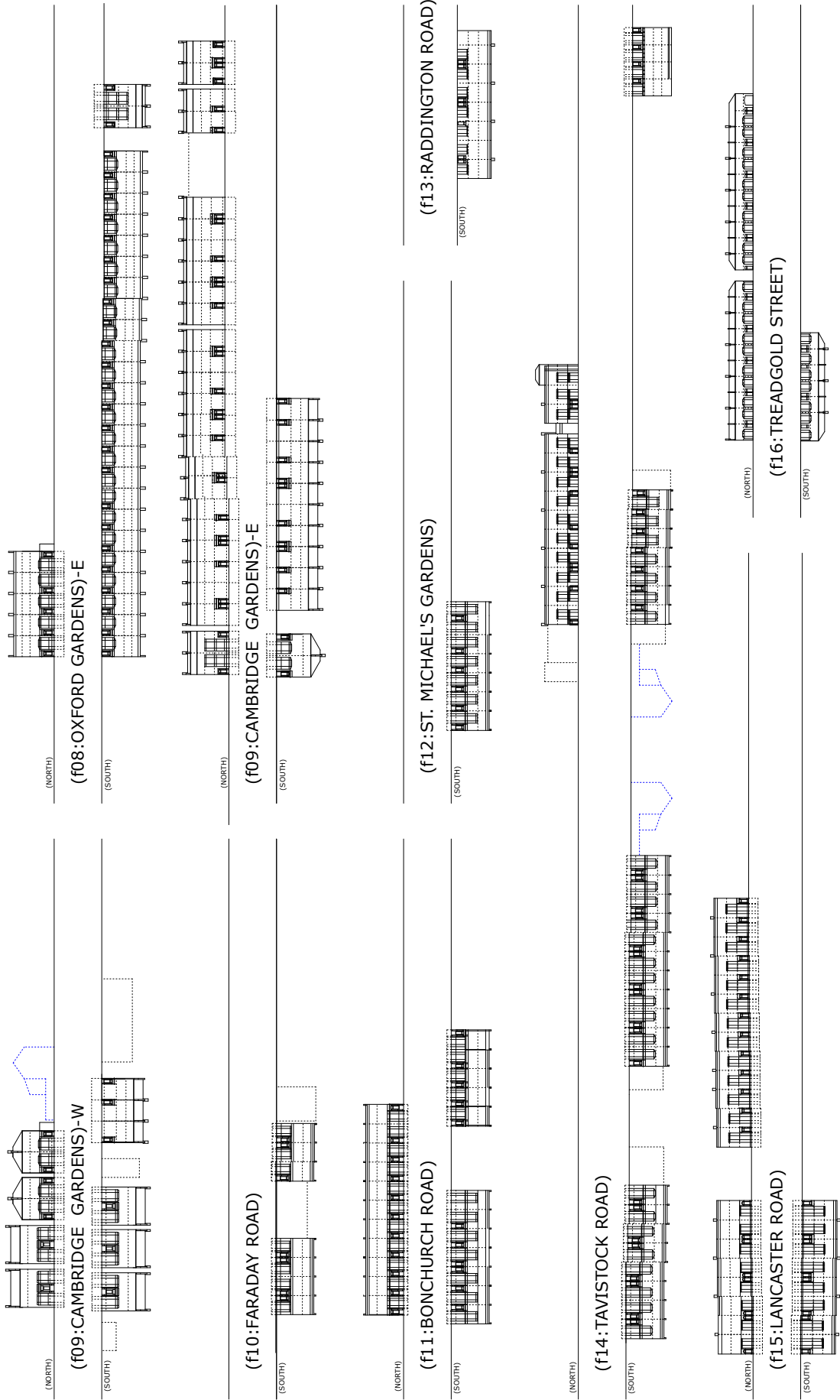














图-07: 家並立面图_04

表 -01: 住戸ファサードリスト_01

記号	2階建 ベースメント無								3階建 ベ無		
	長方形の壁(傾斜屋根妻入)								凹凸のある壁		凹凸のある壁
	2NSS01	2NSS02	2NSS03	2NSS04	2NSS05	2NSS06	2NSS07	2NSS08	2NSI01	2NSI02	3NSI01
基本形	 *1 (e01,e02)	 *1 (f01)	 *1 (e06)	 *1 (f16,e17,e18)	 *1 (e17)	 *1 (e05)	 *1 (e10)	 *1 (f03,e06)	 *1 (e16)		 *1 (e08)
デザイン的変化											
破損等での変化			 *2 (e06)								
端部での変化						 *2 (e05)				 *1 (f01)	

















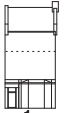
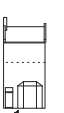






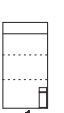





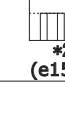


記号	3階建 ベースメント無											
	凹凸のある壁(domerやlucanerを含む)			長方形の壁(傾斜屋根妻入)								
	3NSI02	3NSI03	3NSI04	3NSS01	3NSS03	3NSS04	3NSS05	3NSI06	3NSI07	3NSS08	3NSS09	
基本形	 *1 (e08)	 *1 (e08)	 *1 (f02)	 *1 (f08-W)	 *1 (f01)	 *1 (f04)	 *1 (e04)	 *1 (f08-W)	 *1 (f05)	 *1 (e08)	 *1 (e03)	
デザイン的変化	 *2 (e08)											
破損等での変化	 *3 (e08)											
端部での変化		 *2 (e08)		 *2 (f08-W)							 *2 (e03)	

表 -02: 住戸ファサードリスト_02

記号	3階建 ベースメント無										
	長方形の壁(傾斜屋根妻入)						長方形の壁(パラペット型)				
	3NSS10	3NSS11	3NSS12	3NSS13	3NSS14	3NSS15	3NPS01	3NPS02	3NPS03	3NPS04	3NPS05
基本形	 *1 (e07)	 *1 (e16)(e17)	 *1 (f05)	 *1 (f08-W)	 *1 (f08-W)	 *1 (e06)	 *1 (f13)	 *1 (e15)	 *1 (f14)	 *1 (e06)	 *1 (e14)
デザイン的变化							 *2 (f13)				
破損等での变化							 *3 (f13)	 *2 (e15)			
端部での变化							 *4 (f13)		 *2 (f14)		
							 *5 (f13)				

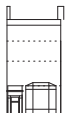
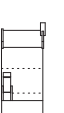

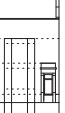
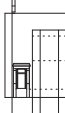





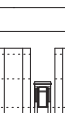

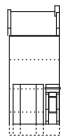
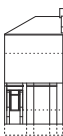









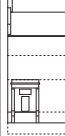

記号	4階建 べ無		2階建 べ有		3階建 ベースメント有					
	長方形の壁(パラペット型)		長方形の壁(傾斜屋根妻入)							
	4NPS01	2BSS01	3BSS01	3BSS02	3BSS03	3BSS04	3BSS05	3BSS06	3BSS07	
基本形	 *1 (f08-E)	 *1 (e06)	 *1 (f04)	 *1 (e10)	 *1 (f04)	 *1 (f07)	 *1 (f09)	 *1 (e10)	 *1 (e12)	
デザイン的变化										
破損等での变化										
端部での变化				 *2 (e10)	 *2 (f04)	 *2 (f07)				

表-03: 住戸ファサードリスト_03

3階建 ペースメント有											
長方形の壁(傾斜屋根裏入)											
記号	3BSS08	3BSS09	3BSS10	3BSS11	3BSS12	3BSS13	3BSS14	3BSS15	3BSS16	3BSS17	3BSS18
基本形	 *1 (e12)	 *1 (e09)	 *1 (e09)	 *1 (e04)	 *1 (f07,f08,f09)	 *1 (f09)	 *1 (f09-W)	 *1 (f09-W)	 *1 (f09-E)	 *1 (f07)	 *1 (f08-W)
デザイン的变化										 *2 (f07)	
破損等での变化										 *3 (f07)	
端部での变化											

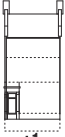
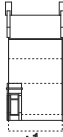



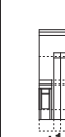
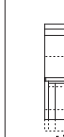

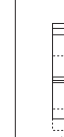

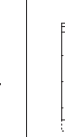
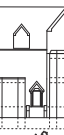

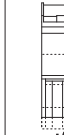



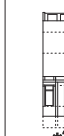

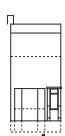
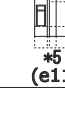
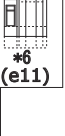


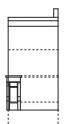
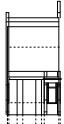
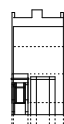
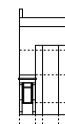
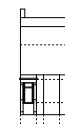
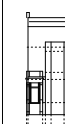
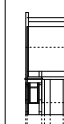
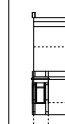
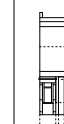



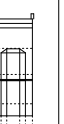

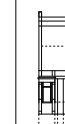


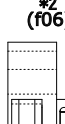




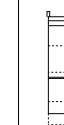
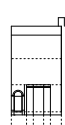
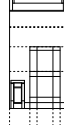
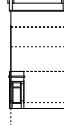




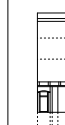
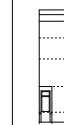
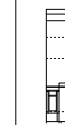
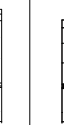
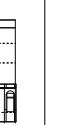
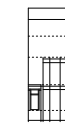
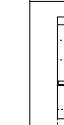
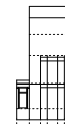
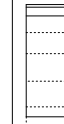
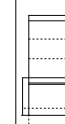

3階建 ペースメント有											
記号	長方形の壁(傾斜屋根裏入)		凹凸のある壁		長方形の壁(パラペット型)						
	3BSS19	3BSS20	3BSI01	3BPS01	3BPS02	3BPS03	3BPS04	3BPS05	3BPS06	3BPS07	3BPS08
基本形	 *1 (f09-W)	 *1 (f09-E)	 *1 (f07-W)	 *1 (e08)	 *1 (e11)	 *1 (e11)	 *1 (e11)	 *1 (e11)	 *1 (e11)	 *1 (e12)	 *1 (e13)
デザイン的变化			 *2 (f07-W)		 *2 (e11)		 *2 (e11)			 *2 (e12)	
破損・改築等での变化					 *3 (e11)	 *4 (e11)	 *3 (e11)			 *3 (e12)	 *4 (e12)
端部での变化					 *5 (e11)	 *6 (e11)	 *4 (e11)			 *5 (e12)	

表-04: 住戸ファサードリスト_04

		3階建 ベースメント有											
		長方形の壁(パラペット型)											
記号	3BPS09	3BPS11	3BPS12	3BPS13	3BPS14	3BPS15	3BPS16	3BPS17	3BPS18	3BPS19	3BPS20	3BPS21	3BPS22
基本形	 *1 (e14)	 *1 (f05)	 *1 (f05)	 *1 (f06)	 *1 (f06)	 *1 (f06-E)	 *1 (f06-E)	 *3 (f06-E)	 *1 (f10)	 *1 (f11)	 *1 (f11,f12)	 *1 (f14)	 *1 (f15)
デザイン的变化							 *2 (f06-E)			 *2 (f11)		 *2 (f14)	
破損等での变化		 *2 (f05)			 *2 (f06)						 *3 (f12)		
端部での变化		 *3 (f05)			 *3 (f06)			 *4 (f06-E)			 *2 (f11)		

		4階建 ベースメント有										
		長方形の壁(傾斜屋根妻入)			長方形の壁(パラペット型)							
記号	3BPS23	4BSS01	4BSS02	4BPS01	4BPS02	4BPS03	4BPS04	4BPS05	4BPS06	4BPS07	4BPS08	5BPS01
基本形	 *1 (f15)	 *1 (f08-E, f09-E)	 *1 (f09-E)	 *1 (e11)	 *1 (e11)	 *1 (e11)	 *1 (f08-E)	 *1 (f14)	 *1 (e11)	 *1 (e11)	 *1 (e11)	 *1 (e11)
デザイン的变化					 *2 (e11)							
破損等での变化											 *2 (e11)	
端部での变化				 *3 (e11)					 *2 (e11)	 *2 (e11)	 *3 (e11)	

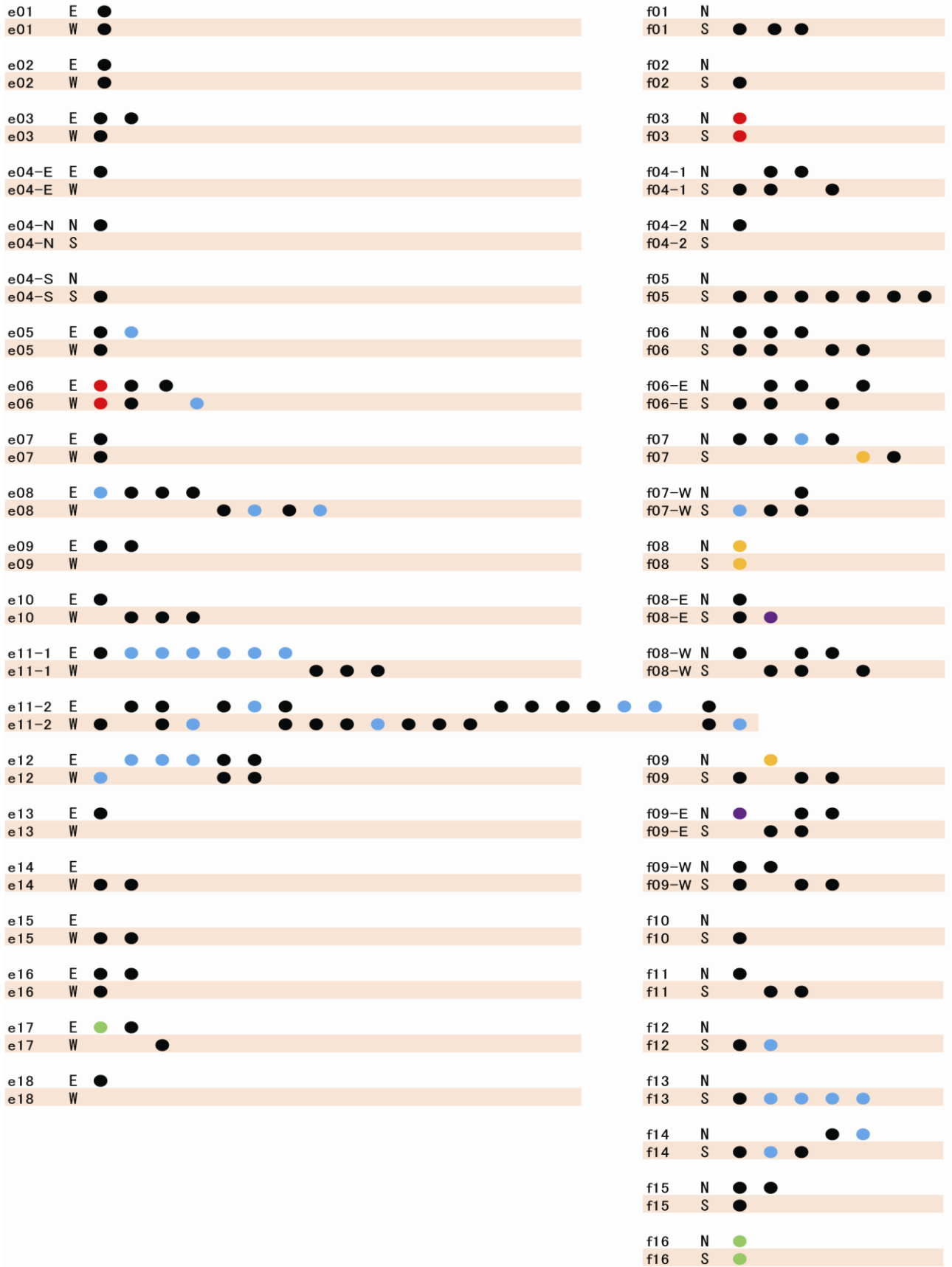


図-08: 家並に用いられている立面型の種類数と街路両側の関係

(同一街路で上下に並ぶ●は同一デザインであることを示す。●は破損等での変形種を示す。
●●を除き同一色は同一基本形であることを示す)

4. 住戸ファサードの分類

家並を分析するに当たっては住戸ファサードの分類を試みた。分類は階数とベースメントの有無を第1指標、壁面の形を第2指標そしてベイ窓の形を第3指標とし、玄関部分のデザインの違いはデザイン的变化とした他、補修によることが明らかなベイ窓の変化は参考までに別分類とした。また、側面に玄関を持つものやダブルフロント（1住戸正面に2つのベイ窓を有す）など家並端部に見られる変化形も別分類としたが、玄関とベイ窓の位置が左右入れ替わっているものは同一分類とした。なお、分類記号は階数、ベースメントの有無（B：有り、N：無し）、屋根の形（S：傾斜屋根、P：パラペット型）、壁面の形（S：四角、I その他）、番号となっている。

その結果、基本形で89種、細分類で137種となった。これを前回のKILBURN HIGH ROAD地区の66基本形、細分類で157種というものと比較してみると基本形では23種類多いが細分類では逆に20種類少ないという結果である。ちなみに総戸数と家並数並びに街路数は前回は1384戸、60家並、30街路で今回は1095戸、73家並、44街路である。家並数の多さが基本形の多さに影響しているものとも考えられる。分類ごとの内訳は基本形でベースメント有55、無34、壁面形では四角82、他7、屋根の形では傾斜屋根53、パラペット型36、階数では2階10、3階以上79となった。

どのようなファサードが多く用いられているかという点では、3BPS14が最多で103住戸に用いられているが、これは同一家並（第2地域のf06）におけるものである。

複数の街路で用いられている基本形は2NSS04（地域番号05地域のe17, e18, f16の3街路、4家並、40住戸）、3BSS12（地域番号02地域のf07, f08, f09の3街路、4家並、84住戸）、2NSS08（地域番号01地域のe06, f03の2街路、4家並、44住戸）、4BSS01（地域番号02地域のf08-E, f09-Eの2街路、2家並、4住戸）の4種類である。これも前回の9家並1種、7家並1種、6家並1種、3家並1種、2家並40種の計44種類と比較すると大きな違いが見られる。また、これら4種類は同一地域内での使用である。他の基本形85種は1街路のみでの使用である。調査対象44街路の内、15街路は道路の片側だけに家並が在るが、残り29街路は両側に在り、そのうち21の街路では両側で共通するファサード基本形を有し、さらに8街路は両側とも同じファサード基本形で構成されている。しかし、全体としてシンメトリックな感じを有するがいろは少ない。

次に図-08を見てみる。図-08はファサードデザインという観点からみた街路両側の関係を示すものであり、同一街路で上下に●や●が並んでいるものは同一のデザインが用いられていることを示す。例えばCHESTERTON ROAD（f06）では、5種類のデザインが北側と南側で用いられ、そのうち2種類は両側に共通していることを示しており、BASSETT ROAD（f07）では南北それぞれに6種類のデザインを用いているがお互いに同じものは無いことを示している。また、BASSETT ROAD（f07）、OXFORD GARDENS（f08）、CAMBRIDGE GARDENS（f09）の●のように共通色（●●除く）のものは複数の街路に共通するファサード基本形であることを示す。

これによると23種のファサード基本形が街路の両側で用いられており、1本の街路の両側で用いられているファサードデザインの共通性に着目したところ、その半数以上が共通であった街路は44街路のうち11街路であり、前回のKILBURN HIGH ROAD地区が30街路の内15街路が該当していたことと比べてもこの地区が統一的家並デザインということの意識が余り強くないことがみてとれる。

5. 家並の分類

① 家並の構成単位

家並の構成単位の分類は前回は踏襲して以下のようにした。

(a). 同じ向きで単に並べていくもの、または玄関が隣り合わないもの — 22家並。

今回の例では LADBOKE GROVE ROAD-1 (E)&(W) (e11 / 図-01)等にみられた。31%がこのタイプで前回までの地域に比べて大変多い。

(ab)あるいは(ba). 家並に(a)の要素をある塊で部分的に含むもの - 11家並。

これは今回初めて設けた分類で、LADBOKE GROVE ROAD-2 (E)&(W) (e11 / 図-01)等にみられた。このこともこの地区の特徴といえよう。16%がこのタイプで前回までの地域に比べると多い。

(ab)と (ba) の違いは家並の中で(a)が主流であるものが(ab)で(b)が主であるものが(ba)と記している。

(b). 鏡映しの2戸を組み合わせたもの - 20家並。

今回は BRACEWELL ROAD (E)&(W) (e01 / 図-01)にみられた。TERRACED HOUSE の構成単位としてはもともと基本的な形であり、これまでの調査地域では50%以上を占めるのが一般であったが、ここでは29%と(a)タイプの31%よりも少ない結果となっている。

(b/e). 部分的に(b)と(e)が混在しているもの - 1家並。

今回の例では ARCH WAY CROSS (E) (e05 / 図-01)等にみられたもので、今回新たに作成した分類である。1%がこのタイプであった。

(c). 鏡映しの2戸を組み合わせて意味の感じられる別の形を成すもの - 10家並。

今回の例では HIGH LEVER ROAD (E)&(W) (e05 / 図-01)等にみられた。14%がこのタイプで前回までの地域に比べて多い方である。

(d). (b)と(c)を組み合わせて更に大きなパターンをなすもの - 0家並。

今回はみられなかった。

(e). (b)または複数の(b)と別の1戸を組み合わせて大きなパターンをなすもの - 1家並。

今回の例では ARCH WAY CROSS (W) (e05 / 図-01)にみられた。1%がこのタイプであった

(f). (b)または複数の(b)と別の複数戸を組み合わせて大きなパターンをなすもの - 3家並。

今回 CHESTERTON REOAD-E (E)&(W) (f06 / 図-03)等にみられ、4%がこのタイプであった。

(f/ab). 部分的に(f)と(ab)とが混在しているもの - 2家並。

今回の例では LADBOKE GROVE ROAD-2 (E)&(W) (e11 / 図-01)にみられ、3%を占めていた。これも今回新設した分類である。

この分類にはうまく組み込むことができなかったが f09:CAMBRIDGE GARDENS-Eに見られるように(b)のタイプの間に(a)タイプを挟みこむという住戸入り口の配置で他の地区では見られない形式があった。

以上9分類のうち8つの傾向が見られた。表-05は地域ごとにそれをまとめたものである。地域番号01地域の特徴としては(c)タイプが37%を占めていることである。地域番号02地域や03地域では(a)タイプが50%近くを占めていることが特徴的である。また、この地域には(f)や(f/ab)など、家並全体で中央を軸とした対象形を感じさせる構成をなすものが24%あったことは特筆すべきものである。さらに、戸建てタイプとダブルフロントタイプの家並があるなど他と異なる要素が多い地域である。地域番号04地域は(ab)タイプが75%を占めており、これも今までに無い傾向である。地域番号05地域は100%(b)タイプであり、これまでの調査地区では多く見られる傾向であるが、この地区では特異なものとなっている。

表-06は前回までの地区との比較であるが、上記した各地域の特徴はそのまま今回の調査対象地区の特徴となっている。また、地域番号02地域において見られた戸建てタイプの家並とダブルフロントタイプの家並はこれまでの調査では記録されておらず今回始めてみられたものである。

表-05：家並構成単位 地域間の比較

構成単位型	a	ab	b	b/e	c	d	e	f	f/ab
01	3	1	8	0	7	0	0	0	0
	16%	5%	42%	0%	37%	0%	0%	0%	0%
02	12	5	4	1	3	0	1	3	0
	41%	17%	14%	3%	10%	0%	3%	10%	0%
03	7	2	3	0	0	0	0	0	2
	50%	14%	21%	0%	0%	0%	0%	0%	14%
04	0	3	1	0	0	0	0	0	0
	0%	75%	25%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
05	0	0	4	0	0	0	0	0	0
	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

表-06：家並構成単位 4 地区の比較 FULHAM, KENSAL GREEN, KILBURN HIGH ROAD 地区との比較

構成単位型	a	ab	b	b/e	c	d	e	f	f/ab
FULHAM 地区	7		117		14	5	6	4	
	5%		76%		9%	3%	4%	3%	
KENSAL GREEN 地区	2		100		9	8	15	0	
	1%		75%		7%	6%	11%	0%	
KILBURN HIGH ROAD 地区	2	5	53		0	0	0	0	
	3%	8%	88%		0%	0%	0%	0%	
NORTH KENSINGTON 地区	22	11	20	1	10	0	1	3	2
	31%	16%	29%	1%	14%	0%	1%	4%	3%

② 一連の家並に用いられるファサードデザインの種類

1つの家並に何種類のファサードデザインが用いられているのかをみたのが表-07、08である。以下にこの点から見た各地域の特色について記す。

・地域番号01 地域は68%が1種類のファサードデザインで構成されているが、2種類、3種類のものも16%ずつある。これは家並が比較的短いものが多いことも関係していると思われる。

・地域番号02 地域は1種類が34%で残りは2種類が24%、3種類が38%となっている。また、7種類のファサードデザインで構成されているものも1家並ある。ほぼ3種類以下で構成されることは第1地区と同様であるが、複数で構成されているものが半数以上である点が異なる。

・地域番号03 地域は1種類が43%で多く、残りは2種類が36%、4種類が7%となっている。比較的少ない種類で家並が構成されている点は以上の地域と似た傾向にあるが9種類で構成されるものが14%あるのはこの地域の特徴である。

・地域番号 04 地域は家並の数が少ないので統計的処理には適しないと思うが、1種類と2種類のものが50%ずつとなっている。

・地域番号 05 地域も家並の数が少ないので統計的処理には適しないと思うが、71%が1種類であり、残りは2種類である。

前回までに報告した他地域と比較してみたのが表-08である。この表からもこの地域が少ない種類のファサードデザインの住戸で構成される家並が多いことが見て取れる。FLUHAM 地区に次いでこの傾向が強くみられる。

表-07：一連の家並に用いられるファサードデザインの種類 地域間の比較

種類数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
01	13	3	3	0	0	0	0	0	0	0
	68%	16%	16%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
02	10	7	11	0	0	0	1	0	0	0
	34%	24%	38%	0%	0%	0%	3%	0%	0%	0%
03	6	5	0	1	0	0	0	0	2	0
	43%	36%	0%	7%	0%	0%	0%	0%	14%	0%
04	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	50%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
05	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	71%	29%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

表-08：一連の家並に用いられるファサードデザインの種類 4地区の比較

種類数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
FLUHAM 地区	97	38	14	4	0	0	0	2	1	0
	62%	24%	9%	3%	0%	0%	0%	1%	1%	0%
KENSAL GREEN 地区	45	44	31	6	5	2	0	0	0	0
	34%	33%	23%	5%	4%	2%	0%	0%	0%	0%
KILBURN HIGH ROAD 地区	18	15	9	6	1	4	6	1	0	0
	30%	25%	15%	10%	2%	7%	10%	2%	0%	0%
NORTH KENSINGTON 地区	36	19	14	1	0	0	1	0	2	0
	49%	26%	19%	1%	0%	0%	1%	0%	3%	0%

③ 家並の全体構成

次に全体の構成については、以下に示す7分類にて傾向を調べた。

(ア). (a)または(b)など単一のパターンを連続させるもの — 48家並。

今回の例では BRACEWELL ROAD (E)&(W) (e01 / 図-01)にみられた。

(イ). 家並を数区に分けそれぞれに別のパターンを並べるもの(それぞれの群は街路等で分節されている) —

5家並。

今回の例ではLADBOKE GROVE ROAD-2 (E)&(W) (e11 / 図-01)にみられた。

(ウ). 家並を数区に分けそれぞれに別のパターンを並べるもの(街路等による分節なし)

－ 18家並。

今回の例ではST. LAWRENCE ROAD (E)&(W) (e12 / 図-02)にみられた。

(エ). 家並を数区に分けそれぞれに別のパターンを並べることで家並にリズムを生み出すものや一つの形を成すもの － 0家並。

今回はみられなかった。

(オ). 同一デザインで構成される家並を数区に分け分節点に別のパターンを配するもの － 0家並。

今回はみられなかった。

(カ). 同一デザインで構成される家並を数区に分け分節点に別のパターンを配し、全体として象徴的な形態を形作るもの － 0家並。

今回はみられなかった。

(カ') . 家並全体ではないが、道路などで分割された区画単位で(カ)の特徴が見られるもの － 2家並。

今回の例ではCHESTERTON REOAD-E (N)&(S) (f06 / 図-03)にみられた。

(キ). 複数の住戸で象徴的な形態を作りそれを連続して配置するもの － 0家並。

今回はみられなかった。

表-09：家並全体構成 地域間の比較

全体構成型	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	カ'	キ
01	18	0	1	0	0	0	0	0
	95%	0%	5%	0%	0%	0%	0%	0%
02	13	1	13	0	0	0	2	0
	45%	3%	45%	0%	0%	0%	7%	0%
03	9	2	3	0	0	0	0	0
	64%	14%	21%	0%	0%	0%	0%	0%
04	2	2	0	0	0	0	0	0
	50%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
05	6	0	1	0	0	0	0	0
	86%	0%	14%	0%	0%	0%	0%	0%

地域別に見ていくと以下のような特徴が見られる。

・地域番号01地域はほとんど(95%)が(ア)の構成法でなされており(ウ)の構成をとるものが1家並5%あるだけである。比較的単調な家並で構成される地域といえる。

・地域番号02地域は単調な(ア)とやや単調さを破る(ウ)の構成をとるものがそれぞれ45%となっているが、(イ)や(カ')もそれぞれ3%、7%あり、01地域よりは変化のみられる地域といえる。また、2家並7%の(カ')の構成は住戸を集めて全体的形態を意識した家並構成であり、今回の地区ではこの地域のみである。

- ・地域番号 03 地域は 64%が (ア) の構成となっており、これに (イ) と (ウ) がそれぞれ 14%、21%で続いている。02 地域と同様の傾向を見せる地域である。
- ・地域番号 04 地域は数が少なく性格付けをするのは難しいが、(ア) と (イ) で併せると 100%となり、ここも際立った特徴の無い地域である。
- ・地域番号 05 地域も数が少なく性格付けをするのは難しいが、(ア) が 86、(ウ) が 14%の構成をとっており、形態的な全体構成に美的配慮がなされているとは言い難い地域といえる。

表-10：家並全体構成 4 地区の比較 FULHAM, KENSAL GREEN, KILBURN HIGH ROAD 地区との比較

全体構成型	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	カ'	キ
FULHAM 地区	108	7	32	5	0	0		0
	71%	5%	21%	3%	0%	0%		0%
KENSAL GREEN 地区	63	22	14	4	20	9		2
	47%	16%	10%	3%	15%	7%		1%
KILBURN HIGH ROAD 地区	19	7	26	2	0	4	2	0
	32%	12%	43%	3%	0%	7%	3%	0%
NORTH KENSINGTON 地区	48	5	18	0	0	0	2	0
	68%	7%	25%	0%	0%	0%	3%	0%

以上に記したように NORTH KENSINGTON 地区は地域間の特徴差が比較的小さい地域であり、前回までに報告した地区との関係で見ると数値的には FULHAM 地区と似ている。

④ 街路両側の家並の関係

さて、最後にこれらの家並は道路に沿って建つわけである。以上はそれぞれの家並単独での状態を見てきたが、道路の両側に立ち並ぶ家並の関係をみていくことにする。家並の両側の関係は (0) から (4) の 5 分類を基本とし、それぞれに該当するものを有するが相違点もあるものを「'」の形で分類し、下に示す 10 分類とした。

(0). シンメトリーを感じるもの — 0 街路

今回はみられなかった。

(0') . 道路で分けられた区画単位でシンメトリーを感じるものや基本的にシンメトリーであるのだが片方が延びているなどして完全なシンメトリーではないもの — 1 街路

今回の例では BRACEWELL ROAD (e01/ 図-01)にみられた。

(1). 単位の並び方が同じ — 3 街路

今回の例では BREWSTER GARDENS (e02/ 図-01)にみられた。

(1') . 基本的に単位の並び方が同じだが端部において差異がみられるもの — 4 街路

今回の例では CHESTERTON REOAD (f06/ 図-03)にみられた。

(2). 同じ並び型であるが順序が逆である — 0 街路

今回はみられなかった。

(2') . 大筋(2)の条件を満たすが端部に余分なものが付いている — 1 街路

今回の例では ST. LAWRENCE ROAD (e12/ 図-02)にみられた。

(3). 同じ構成単位であるが並べ方には関係性が見られない — 1 街路

今回の例では SNARSGATE STREET (f03 / 図-02)にみられた。

(3') 両側に共通の構成単位が 2 種類以上含まれているが、並べ方には関係性が見られない

— 2 街路

今回の例では BASSETT ROAD (f07 / 図-03)にみられた。

表-11：街路両側の家並の関係 地域間の比較

地域番号 両側関係型	0	0'	1	1'	2	2'	3	3'	4	4'
01	0	1	2	1	0	0	1	0	1	1
	0%	14%	29%	14%	0%	0%	14%	0%	14%	0%
02	0	0	1	2	0	0	0	1	4	3
	0%	0%	9%	18%	0%	0%	0%	9%	36%	27%
03	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0
	0%	0%	0%	0%	0%	25%	0%	25%	50%	0%
04	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%
05	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1
	0%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	0%	33%	33%

表-12：街路両側の家並の関係 4 地区の比較 FULHAM, KENSAL GREEN, KILBURN HIGH ROAD 地区との比較

地域番号 両側関係型	0	0'	1	1'	2	2'	3	3'	4	4'
FULHAM 地区	10		30		0		4		44	
	11%		34%		0%		5%		50%	
KENSAL GREEN 地区	13		0		1		31		20	
	20%		0%		2%		48%		31%	
KILBURN HIGH ROAD 地区	13		4		0		5		7	
	45%		14%		0%		17%		24%	
	3	10	2	2	0	0	1	4	4	3
	10%	34%	7%	7%	0%	0%	3%	14%	14%	10%
NORTH KENSINGTON 地区	1		7		1		3		15	
	4%		26%		4%		11%		56%	
	0	1	3	4	0	1	1	2	10	5
	0%	4%	11%	15%	0%	4%	4%	7%	37%	19%

(4). 構成単位も異なり、関係性は見られない — 10 街路

今回の例では ST. CLEMENT'S ROAD (e17/ 図-02) にみられた。

(4') 両側とも複数の単位で構成されているが共通の構成単位は 1 種類だけある — 5 街路今回の例では STONELEIGH STREET (e16/ 図-02)にみられた。

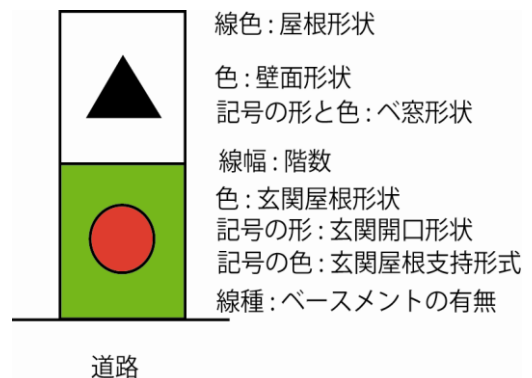
地域別に見ていくと以下のような特徴が見られる。

- ・地域番号 01 地域は(1)が 29%を占めている他は(0')、(1')、(3)、(4)そして(4')と分散していることから街路両側の家並の関係を強く意識した地域とはいえない。
- ・地域番号 02 地域は(4)が 4 街路で 36%を占め、(4')も 3 街路 27%をしめており、極めて街路両側の家並の関係性は薄い地域である。
- ・地域番号 03 地域は(4)が 2 街路 50%を占め、他は(2')、(3')ともに 1 街路であり、街路両側の家並の関係性は薄い地域である。
- ・地域番号 04 地域は (4')が 100%であり、極めて街路両側の家並の関係性は薄い地域である。
- ・地域番号 05 地域は(1')、(4)そして(4')が各 1 街路であり、ここも家並の関係性は薄い地域である。

前回までに報告した地区のなかに同類のものを求めると、街路両側の家並で共通の構成要素を持たないということでは Fluham 地区がそれに該当するが、今回の地域は Fluham 地区が 50%であったのに対し(4)及び(4')を併せると 56%となる。これはこれまでの最多である。これまでも度々記したことではあるが、この地域は街路両側の家並の調和といったことが余り意識されていない地域といえる。

6. 家並デザインと街路間の関係

一つの街路の家並と周辺の街路の家並との関係を俯瞰するために「家並周辺関係分析図」を作成した。ここでは右図に示すように、壁面形状、ベイ窓形状、屋根形状並びに階数、玄関屋根形状、玄関開口形状、玄関屋根型支持形式、ベースメントの有無の 8 項目についてそれぞれを分類し、その組み合わせで住戸ファサードのデザインを表現し、家並と周辺の関係並びにそれを構成する住戸のデザインについてみてみた。それぞれの記号、色彩の意味は図-08 に示すとおりであるが、壁面形状を色



で 7 種、ベイ窓形状を色と記号の組み合わせで 13 種、屋根形状を線の色で 2 種、階数を線の太さで 2 種、玄関屋根形状を色で 7 種、玄関開口形状を 4 種、玄関屋根型支持形式を色彩で 4 種に分け、更にベースメントの有無を線種で 2 種に分けた。

前回の KILBURN HIGH ROAD 地区と比較すると壁面形状は 5 種 (38%)、ベイ窓形状は 9 種 (41%) それぞれ減、屋根形状、階数、玄関開口形状とベースメントの有無は同じ、玄関屋根形状と玄関屋根型支持形式はそれぞれ 1 種増という結果であった。この地区では壁面形状やベイ窓の形は KILBURN HIGH ROAD 地区に比して大幅に少なくなっているが、独立柱のものが見られたなど玄関の屋根形状とその支持方法では他地域に見られないものがあった。

「家並周辺関係分析図」からは次の事柄が読み取れる。

- ・地域番号 01 の地域は f02:NORTH POLE ROAD にドーマ窓付の住戸が見られるもののほとんどは四角の壁面であり、

全住戸が傾斜屋根となっている。またベースメントのあるものは少なく f04:ST. QUINTIN AVENUE の半分と e06:LATIMER ROAD の一部にみられるのみである。ベイ窓の形は多様であるが地域ごとにまとまっており、f02:NORTH POLE ROAD を境に南側にベイ窓の無いタイプの一群がある。玄関屋根形状は水平のものが主であるが f02:NORTH POLE ROAD を境に南側に玄関庇の無いタイプの一群がある。玄関屋根の支持方法はもち送り型のみであるが、開口形状は西半分が四角、東半分はアーチ系といった特色が見られる。規模は f04:ST. QUINTIN AVENUE に3階建て以上のものがあるが、ほとんどは2階建てである。

- ・地域番号 02 の地域は e08:ARCH WAY CEOSSE に妻面型やルキャナーの付いた住戸が見られるが、ほとんどは四角の壁面である。屋根は傾斜屋根が主であるが、f06:CHESTERTON ROAD と f05:ST. CHERLS' S SQUERE の東半分にはパラペット式の住戸もある。またベースメントの無いものは f05:ST. CHERLS' S SQUERE の西半分と e08:ARCH WAY CEOSSE の一部、f08:OXFORD GARDENS の西部分、それに e07:ST. HELEN' S GARDENS にみられるが、ほとんどはベースメント付である。ベイ窓の形は多様であるが地域ごとにまとまっている。玄関屋根形状は水平のものが主であるが f08:OXFORD GARDENS の西部分には妻面型や玄関屋根の無いもの、f07:BASSETT ROAD の西部分にも玄関屋根の無いものが見られる。玄関屋根の支持方法は付柱式が多いが、f07:BASSETT ROAD には独立柱式の一群がある。玄関開口形状はほとんどが四角であるが、e08:ARCH WAY CEOSSE の多く、f07:BASSETT ROAD の西部分、f08:OXFORD GARDENS の西部分には頂部が山形となったものも見られる。階数は f07:BASSETT ROAD の西部分に2階建てのものがあるがほとんどは3階建て以上である。

- ・地域番号 03 の地域は総て四角の壁面である。屋根はパラペット式が主であるが、e12:ST. LAWRENCE ROAD とそれに交わる f08:OXFORD GARDENS そしてそれに続く f13:RADDINGTON ROAD それに交わる e15:BLAGROVE ROAD は傾斜屋根である。またベースメントの無いものは f08:OXFORD GARDENS と e15:BLAGROVE ROAD のみであり、他は総てベースメント付である。ベイ窓については f09:CAMBRIDGE GARDENS の西端の部分を除くと総てベイ窓付であり、その形は多様である。しかし地域ごとにまとまっている。玄関屋根形状は破損したものも含めると無いものが点在するが、水平のものが主である。但し f08:OXFORD GARDENS は薄いアーチ型となっている。玄関屋根の支持方法は f09:CAMBRIDGE GARDENS と e12:ST. LAWRENCE ROAD に独立柱式のものがある他、e11:LADBOKE GROVE ROAD、f13: RADDINGTON ROAD そして e15:BLAGROVE ROAD 等には玄関屋根の支持材が無いものが点在している。しかし総体としては付柱式が多い。玄関開口形状はほとんどが四角であるが、通りの角部等にその他の形式もみられる。階数は総て3階建て以上である。

- ・地域番号 04 の地域は e16:STONELEIGH STREET の一部に壁面が妻面型の住戸が見られ、ほとんどは四角の壁面である。屋根は総て傾斜屋根、全戸にベースメントは無い。ベイ窓の形も1層のもので統一されている。玄関屋根は無いものがほとんどであるが、e17:ST. CLEMENT' S ROAD の南半分にもアーチ形のものがある。その部分の玄関屋根の支持方法は付柱式である。またこの部分は玄関開口形状もアーチ型であるが、他は四角である。規模は総て2階建てである。

- ・地域番号 05 の地域は総て四角の壁面であり、屋根はパラペット式である。またベースメントの無いものも f14:TAVISTOK ROAD の北側にみられるが、ほとんどはベースメント付である。ベイ窓の形は3種類見られるが地域ごとにまとまっている。玄関屋根形状は総て水平のものあり、玄関屋根の支持方法は f14:TAVISTOK ROAD の東端を除いて総て付柱式である。玄関開口形状も f14:TAVISTOK ROAD の東端を除いて総て四角である。階数は総て3階建て以上である。

以上見てきたようにこの地区では一つの街路と周辺の街路との関係性は薄い。

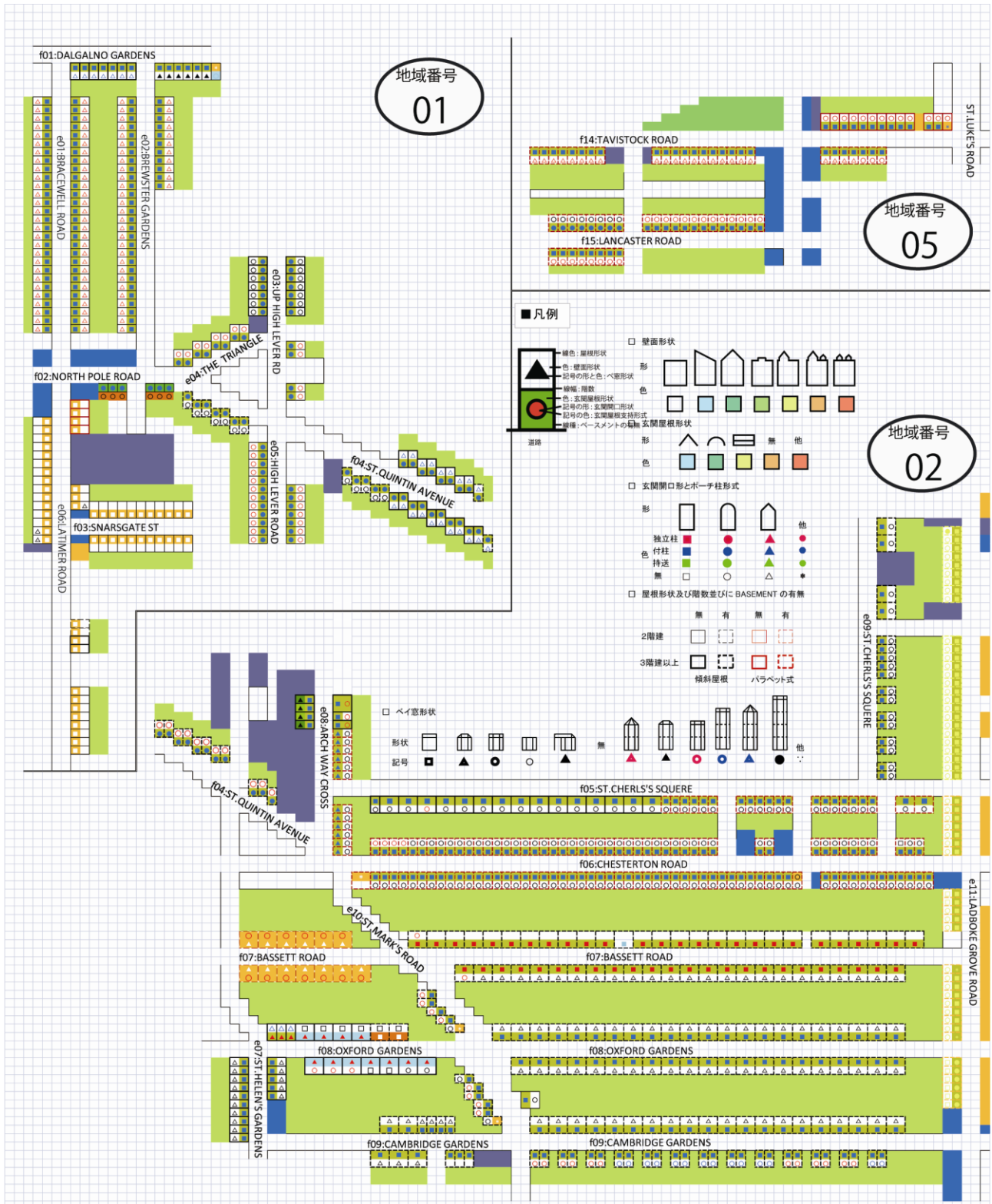


図-08: 家並周辺関係分析図_1

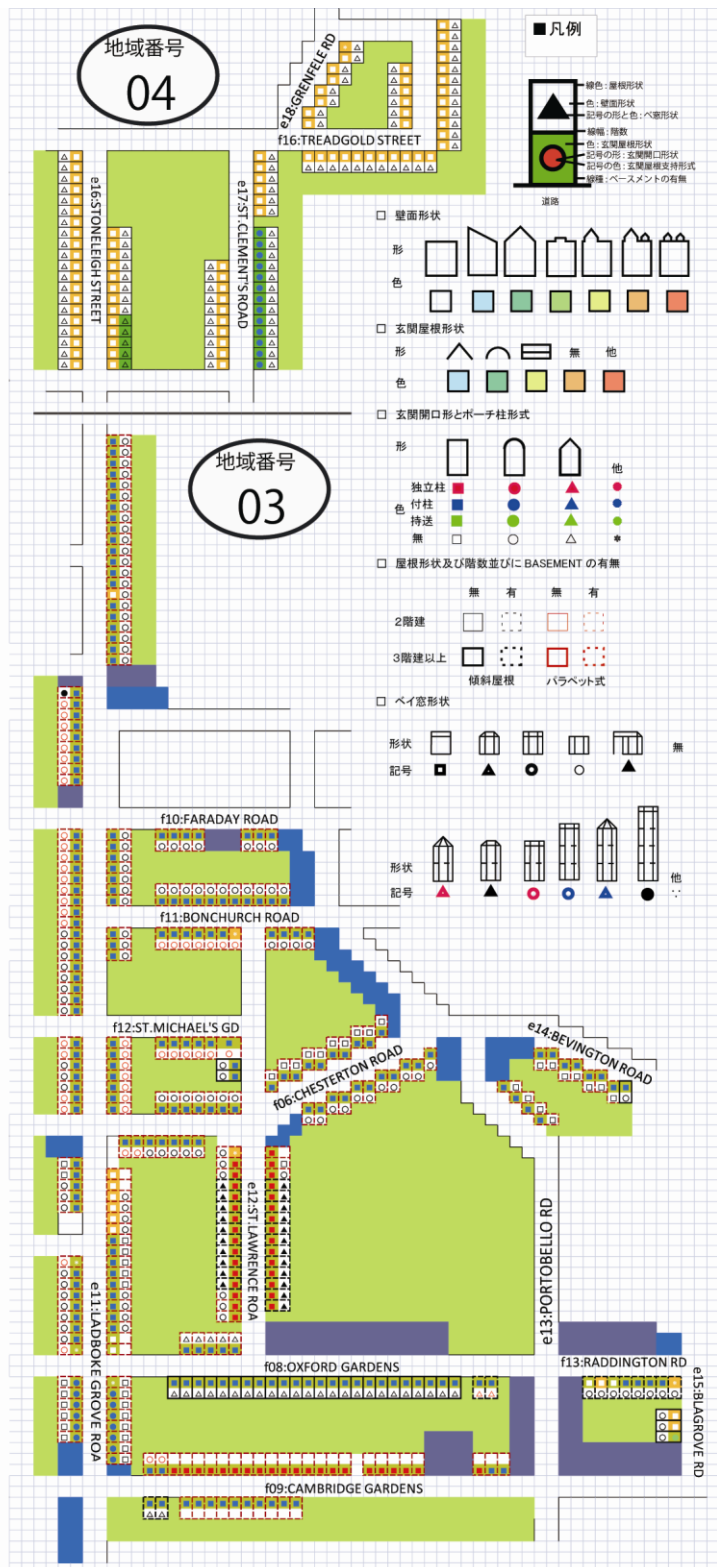


図-09: 家並周辺関係分析図_2

表-13: 家並分類一覧 (N, S, E, W は街路から見た建物正面の方位)

街路名	方位	立面種類数		構成単位型	家並型	住戸数	両側関係型	地域番号	街路記	掲載図場番	住戸数	家並型	立面種類数		方位	
		端部変形	全体										端部変形	全体		
BRACEWELL ROAD	E	0	1	b	ア	7	0'	01	e01	図-01	17	ア	b	1	0	W
BREWSTER GARDENS	E	0	1	b	ア	11	1	01	e02	図-01	28	ア	b	1	0	W
UP HIGH LEVER ROAD	E	1	1	b	ア	7	4	01	e03	図-01	7	ア	a	1	0	W
THE TRIANGLE-E	E	0	1	c	ア	4	/	01	e04	図-01	/	/	/	/	/	/
THE TRIANGLE-N	N	1	2	c	ア	8	/	01	e04	図-02	/	/	/	/	/	/
THE TRIANGLE-S	/	/	/	/	/	/	/	01	e04	図-02	9	ア	c	1	0	S
HIGH LEVER ROAD	E	1	1	c	ア	8	1'	01	e05	図-01	12	ア	c	1	0	W
LATIMER ROAD	E	0	3	ba	ア	19	1	01	e06	図-01	15	ア	b	2	1	W
ST.HELEN'S GARDENS	E	0	1	b	ア	5	1'	02	e07	図-01	10	ア	b	1	0	W
ARCH WAY CROSS	E	1	3	b/e	ウ	16	4	02	e08	図-01	4	ウ	e	2	0	W
ST.CHERLS'S SQUERE	E	0	2	ba	イ	17	/	02	e09	図-02	/	/	/	/	/	/
ST.MARK'S ROAD	E	0	1	a	ア	2	4	02	e10	図-01	11	ア	c	1	3	W
LADBOKE GROVE ROAD-1	E	0	1	a	ア	24	4	03	e11	図-01	9	ウ	a	2	0	W
LADBOKE GROVE ROAD-2	E	3	9	ab/f	イ	42	3'	03	e11	図-01	45	イ	ab/f	9	3	W
ST.LAWRENCE ROAD	E	0	4	ba	ウ	17	2'	03	e12	図-02	16	ウ	ba	2	1	W
PORTOBELLO ROAD	E	0	1	a	ア	4	/	03	e13	図-02	/	/	/	/	/	/
BEVINGTON ROAD	/	/	/	/	/	/	/	03	e14	図-02	8	ア	a	2	0	W
BLAGROVE ROAD	/	/	/	/	/	/	/	03	e15	図-02	3	ア	b	2	0	/
STONELEIGH STREET	E	0	2	b	ウ	13	4'	05	e16	図-02	20	ア	b	1	0	W
ST.CLEMENT'S ROAD	E	0	2	b	ア	19	4	05	e17	図-02	10	ア	b	1	0	W
GREENFELE ROAD	E	1	1	b	ア	8	/	05	e18	図-02	/	/	/	/	/	/
DALGALNO GARDENS	/	/	/	/	/	/	/	01	f01	図-02	14	ア	b	3	0	S
NORTH POLE ROAD	/	/	/	/	/	/	/	01	f02	図-02	6	ア	b	1	0	S
SNARSGATE STREET	N	0	1	a	ア	11	3	01	f03	図-02	10	ア	a	1	0	S
ST.QUINTIN AVENUE-1	N	0	2	c	ア	9	4'	01	f04	図-02	16	ウ	c	3	0	S
ST.QUINTIN AVENUE-2	N	0	1	c	ア	11	4'	02	f04	図-02	/	/	/	/	/	/
ST.CHERLS'S SQUERE	/	/	/	/	/	/	/	02	f05	図-03	28	ウ	f	7	0	S
CHESTERTON REOAD	N	0	3	b	ウ	50	1'	02	f06	図-03	59	ア	b	3	0	S
CHESTERTON REOAD-E	N	0	3	f	カ'	18	4'	02	f06	図-03	18	カ'	f	3	0	S
BASSETT ROAD	N	0	2	a	ウ	26	3'	02	f07	図-03	22	ア	a	3	0	S
BASSETT ROAD-W	N	0	1	a	ア	6	1'	02	f07	図-03	7	ア	a	2	1	S
OXFORD GARDENS	N	0	1	a	ア	22	1	02	f08	図-03	20	ア	a	1	0	S
OXFORD GARDENS-E	N	0	1	a	ア	5	4	02	f08	図-04	26	ウ	a	2	0	S
OXFORD GARDENS-W	N	0	3	a	ウ	9	4'	02	f08	図-03	7	ウ	a	3	0	S
CAMBRIDGE GARDENS	E	0	1	a	ア	20	4'	02	f09	図-03	26	ウ	c	3	0	W
CAMBRIDGE GARDENS-E	E	0	3	ba	ウ	27	4	02	f09	図-04	12	ウ	ab	2	0	W
CAMBRIDGE GARDENS-W	N	0	2	ab	ウ	6	5'	02	f09	図-04	6	ウ	ab	3	0	S
FARADAY ROAD	/	/	/	/	/	/	/	03	f10	図-04	7	ア	b	1	0	S
BONCHURCH ROAD	N	0	1	a	ア	11	4	03	f11	図-04	12	ア	a	2	0	S
ST.MICHAEL'S GARDENS	/	/	/	/	/	/	/	03	f12	図-04	6	ア	a	1	1	S
RADDINGTON ROAD	/	/	/	/	/	/	/	03	f13	図-04	8	ア	b	1	1	S
TAVISTOCK ROAD(N)	N	1	1	ab	ア	13	4	04	f14	図-04	30	イ	ba	2	0	S
LANCASTER ROAD(N)	N	0	2	ab	イ	21	4	04	f15	図-04	8	ア	b	1	0	S
TREADGOLD STREET	N	0	1	b	ア	21	1'	05	f16	図-04	6	ア	b	1	1	S

7. まとめ

今回調査対象とした KILBURN HIGH ROAD 地区は図-02 にみるように再開発された多く、地域ごとに比較するために行った地域割りも今回は自ずと地勢的なものから決まるといったものであったが、それは住戸のファサードデザインや家並みといった観点からみてもある程度適合するものであった。

家並み構成単位については玄関の位置が同じである(a)の配置が30%を占めていること、(a)と(b)が交互においてパターン化するような(ab)が21%あったことは特筆すべきである。

家並の全体構成については単一のパターンを連続させるもの(67%)、(ウ) 家並みを数区に分けそれぞれに別のパターンを並べるもの(通りによる分節無し)(26%)と2つで9割強を占めていた。全体構成という面では、TERRACED HOUSE を考案した Inigo Jones が意図した家並全体で宮殿のような1つの大きな建物を成すものは見られなかった。

道路の両側の関係ではシンメトリーを感じさせるなど構成的なものは少なく、街路両側で構成単位も異なり、関係性は見られないものが6割を占めていた。

この地区の建物の特徴を総括するならば四角い壁面で屋根形状はパラペット式、ほとんどがベースメント付で3階建て以上であるといった点が共通している。

参考文献

- 1) Stefan Muthesius THE ENGLISH TERRACED HOUSE 1982, Yale University
- 2) Doreen Yarwood DOREEN YARWOOD ENCYCLOPEDIA OF ARCHITECTURE 1985, B. T. Batsford Ltd
- 3) Edward Jones & Christopher Woodward THIRD EDITION A GUIDE TO THE ARCHITECTURE OF LONDON 2000, Seven Dials, Cassell & Co
- 4) James Stevens Curl A DICTIONARY OF ARCHITECTURE 1999, Oxford University Press
- 5) Cyril M. Harris DICTIONARY OF ARCHITECTURE AND CONSTRUCTION 1975, McGraw-Hill, Inc.
- 6) Alan Godfrey Edition OLD ORDNANCE SURVEY MAPS
36:Willesden Green 1893
37:Swiss Cottage 1894
- 7) Elizabeth McKellar THE BIRTH OF MODERN LONDON 1999, Manchester University Press